

奈良県大芸術祭参加

奈良金春会演能会

令和元年十月二十日（日）午後十二時半はじめ

奈良春日野国際フォーラム薦
（旧称）奈良県新公会堂

能 樂 木 ル
奈良市春日野町一〇一一番地
電話（〇七四二）三七一六三〇（代）

能のお話

佐藤俊之

督風

小松

能班女

仕舞

能班

仕舞

狂言

萩大名

休

憩

二十分

～

守荒赤網小橋金

大 小 笛
鼓 鼓 鼓
ア ア シ
ド ド テ
イ(野上)の宿の長
ア(吉田)の少将
ワキツレ(従者)
ア(山上の宿の長)者
キ(吉田)の少将
シ(前班)者
テ(後班)者
シ(女)者

酒吉川
井賢一
春宥

丸茂茂
石山山
千之丞
やすし
あきら

小清鍛治経

キリ

仕舞

能鶴

仕舞

狂言

萩大名

休

憩

～

守荒赤網小橋金

大 小 笛
鼓 鼓 鼓
ア ア シ
ド ド テ
イ(野上)の宿の長
ア(吉田)の少将
ワキツレ(従者)
ア(山上の宿の長)者
キ(吉田)の少将
シ(前班)者
テ(後班)者
シ(女)者

酒吉川
井賢一
春宥

丸茂茂
石山山
千之丞
やすし
あきら

太大小笛アワシ
鼓鼓鼓イキテ
所旅後前
の鶴舟
者僧人
上森荒左山小高
田山木鴻下林橋
泰建雅守
悟幸作義之努忍
金山
春井
憲綱
和雄

班女（はんじょ）

解説

中司由起子

美濃国野上の宿の遊女花子（前シテ）は、恋人の吉田少将が東国に旅立つて以来、互いに取り交わした扇を眺めるばかりなので、宿の長（アイ）から追放されてしまう。一方、野上へ戻つて来た少将（ワキ）は、花子の不在を知ると都へ帰り、加茂社に参詣する。すると女物狂（後シテ）が現れ恋人との再会を神に祈り、叶わぬ恋に心を乱す様を見せる。少将の従者（ワキツレ）が物狂を班女と呼び、芸をするよう促す。班女は恋慕の舞を舞い、扇を胸に恋を失つた悲しみを訴える。物狂の扇を目にした少将は、班女が花子であると気付き、二人は再会を果たす。

班女という名は、中国の皇帝の寵愛を失つた班婕妤という女性が、我が身を秋になると捨て置かれる扇に喩える詩を詠んだことに由来します。謡には班女と扇の詩歌が数多く踏まえられています。世阿弥作。

鶴

（ぬえ）

旅の僧（ワキ）が津国芦屋の里を訪れ、里の男（アイ）に宿を頼む。男は、化け物が現れると忠告したうえで川崎の御堂に泊まるように勧める。夜更けに小舟を操る怪しい風体の男（前シテ）が、御堂に近づいて来る。怪しい男は鶴の亡心であると名乗ると、近衛院の時代に帝に害をなそうとしたが、源頼政に退治されたことを語り、うつお舟に乗つて波間に消える。里の男が様子を見に現れ、僧に鶴の供養を勧める。やがて鶴の靈が恐ろしい姿で出現。鶴の靈は頼政の矢に当り、うつお舟に押し込められ淀川に流された様を再現する。芦屋の浮州に流れ着いたうつお舟はそのまま朽ちていったと述べ、靈は暗い水へ消えて行く。

『平家物語』をもとに、成仏を願いつつも叶わない鶴の孤独と敗者の悲哀を描いた世阿弥の作品です。鶴は、頭は猿、尾は蛇、手足は虎、鳴き声は古来より不吉とされた鳥、トラックミに似ているという化け物です。

令和二年度 奈良金春会演能会 予定日

四月二十六日(日)

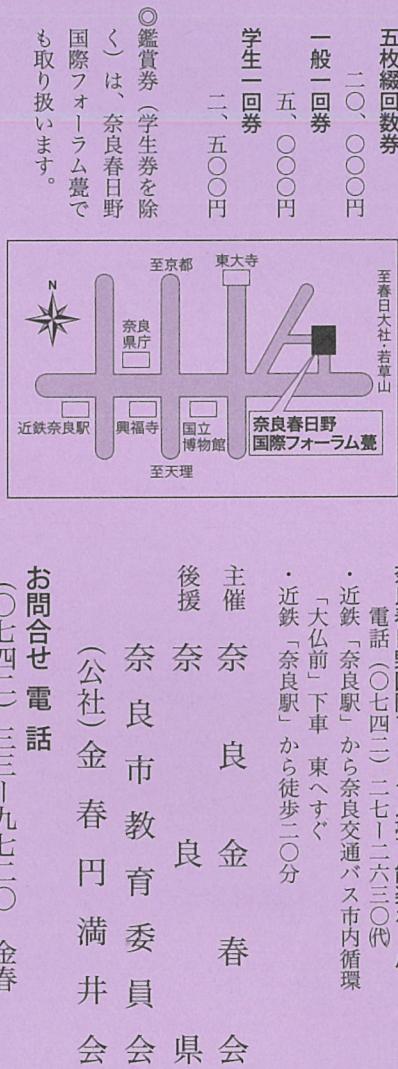
六月二十一日(日)

九月二十七日(日)

十一月二十九日(日)

令和二年度 奈良金春会連合 謡曲・仕舞会 予定日

七月十二日(日)



- ◎奈良県新公会堂は、平成二十七年から、奈良春日野国際フォーラム棟に改称されました。
- ◎特別に許可された人以外の写真撮影・録画・録音はお断りします。
- ◎携帯電話は電源をお切り下さい。また会話・飲食など他のお客様の迷惑になるような行為は御遠慮下さい。
- ◎奈良春日野国際フォーラム棟の駐車場は現在一般の方の車の受け入れをしておりません。車でお越しの方は他所に駐車場をお求めいただことになります。
- ◎満席の場合など当日会場では入場券を発売しない事があります。又入場制限する事もあります。
- ◎都合により、演者、曲目が変更される場合があります。